

令和3年度 奈良県スポーツ推進審議会第3回定例会 委員発言概要（項目ごとに整理）
 （R4年2月2日 14時～16時 於.コンベンションセンター）

●スポーツ推進の基本理念について

<全般的なご意見など>

委員名	主な内容
佐久間会長	・スポーツの定義が重要。 ・スポーツは競うことだけではない。 ・理念の順番が持つ意義についても考えてみてはどうか。
中西委員	・資料4 p1 対応が必要な課題「子ども体力の低下…」について、 ・スポーツをしない子の意欲や学力の低下について、追記してはどうか。
松永委員	・理念の順番は重要。2～5の順序を検討してはどうか。 ・健康長寿を目指すのに、健康(健幸)が理念に入っていない。 ・理念に中高年や高齢者についての記載がないのが気になるところ。 ・「振興」と「推進」の使い分けが分かりづらい。
田中委員	・高齢者に関する内容が必要。
千葉委員	・万人受けするよう幅広くしている印象なので、対象者をしぼった理念にしてはどうか。 ・無関心層へのアプローチとして、運動と食などを結びつけるのも良いのではないか。
福西委員	・仕掛けづくりやイベントなどをマネジメントする人材が重要。

1. 「楽しく」「自発的に」スポーツに継続的に親しめるよう推進する

委員名	主な内容
星野委員	・「スポーツを継続的に」が良い。 ・無関心層へアプローチする「仕掛けづくり」が重要。仕掛けには、人、場所、ツールがあると良い。
朝原委員	・「楽しく」「自発的に」は理想だが、どう取り組むかが難しい。 ・なぜスポーツをしないのかをもっと分析して、施策に反映が必要。
伊藤委員	・最も重要。高齢者は本格的なスポーツは困難でも、身体を動かすことが大切。
松下委員	・「楽しく」「自発的に」がビッグワード。 ・「苦しく」「強制的に」が当たり前のように行われてきたので、スポーツのイメージを変えることが必要。 ・ターゲットごとに施策を検討することが重要。

2. 適切な指導など安全・安心に配慮された環境のもとでスポーツを推進する

委員名	主な内容
田中委員	・スクールトレーナーやアスレチックトレーナーの育成が安全・安心につながる。 ・安全・安心のためにもスクールトレーナー配置など、各学校でスポーツマネジメントを行って欲しい。
蝶間林委員	・スポーツをやる上で、己を知ることが重要。己を知れば、怪我は防げることを広く周知することも重要。 ・スポーツには、心と体とスキルの問題があり、上手にできたという達成感を得るためには指導者育成が大事。

3. アスリートが輝き活躍できるようスポーツを推進する

委員名	主な内容
佐久間会長	・県民に夢やあこがれ、勇気・感動を与えるに「希望」も追記してほしい。

4. 子どもたちが豊かな心と人間性をはぐくむ基礎となるようスポーツを推進する

委員名	主な内容
星野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもたちの豊かな心と人間性」が良い。 ・「子どもを中心とした人々の豊かな心と人間性をはぐくむ基礎となるように遊びとスポーツ(の環境づくり)を推進する。」としてどうか。 ・「遊び」は、上位に位置づけられるべき。人間の成長、人生に影響を与える。 ・幼児期から遊びを体験できる環境作りの推進が重要。若い頃に体力を上げておくことが後の人生の体力に影響する。
中西委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「心と体と知性、人間性をはぐくむ基礎となる」としてどうか。
蝶間林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものスポーツの機会の増には、保護者の理解が必要。

5. 地域の交流やきずなづくりが図られ地域の活性化に資するようスポーツを推進する

委員名	主な内容
並河委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の健康、子どもの自己肯定感、コミュニケーション力の向上など、コロナ後にスポーツが果たす役割は重要。 ・地域問題や自身の健康などの課題に対して、スポーツの持つ意味合いを整理して施策間連携で訴求できれば良い。 ・施設の収益性や、利益確保できる人材の確保が重要。 ・スポーツ人材を組み合わせる仕組みやスポーツツーリズムやワーケーションとをつなげるなど、様々な人とモノのプラットフォームが重要。
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツは、地域間の交流が戻ってくるきっかけになると思う。 ・理念をどう推進するかが重要。

6. 共生社会の実現に資するようスポーツを推進する

委員名	主な内容
森山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・影響力ある部分にスポットをあてると波及効果が期待できる。 ・健康寿命日本一を目指すことを明確にするために、シニア層に焦点をあててはどうか。

●スポーツ振興の柱と施策展開について

<全般的なご意見など>

委員名	主な内容
松永委員	・柱にも「健康(健幸)」を入れてはどうか。

1. 健康増進のためのスポーツの推進<体を動かす>

委員名	主な内容
松永委員	<ul style="list-style-type: none"> ・<心と体をうごかす>が良い。 ・生涯スポーツの学生は成人か。また、壮年期などの括りも含めて、検討が必要ではないか。 ・自発的にスポーツをできない環境にある子どもや無関心層にどう対応するかは、重要な視点で、他部局と横断的に連携して対応が必要。 ・国の基本計画では、妊産婦や産後間もない女性へのケアについて議論がある。 ・スポーツ格差が課題。解決のために、例えば子ども食堂を利用する子どもの運動・スポーツを促進するという観点から、子ども食堂を活用するなど。
中西委員	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期に遊びを通して、体を動かす楽しさを知ることが重要。 ・幼児期に1日30分～60分程度、楽しく体を動かすことを習慣つけることが重要。 ・デンマークでは、習慣づけられ、高齢者は杖を使わず過ごせると言われている。 ・幼児期の習慣が生涯にわたり良い影響を与えるという、「持ち越し効果」理論(山梨大学中村副学長)が参考になる。
朝原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・無関心層へのアプローチをどうしていくかが重要。 ・特に子どもへのアプローチは、親の意向や環境に左右される。 ・策として、スポーツではない「きっかけ」をつくる。自分ごととして捉えるため、健康面でのリスクを知ってもらうことと、運動の楽しさを知ってもらうことの両面から行動変容をいかに促すかが重要。
川手委員	・子どもの発達障害の分野では、作業療法士などの人材が不足しているので、認知を広めて育成していきたい。

2. スポーツ振興を担う人材の育成<人を育てる>

委員名	主な内容
星野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進には、「仕掛け人」の育成が重要。 仕掛け人には、バイタリティのある高齢者やワークライフバランスを大切にしている壮年期の方々の参画などが考えられる。
松永委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施策展開において、仕掛け、仕組みづくりが重要 ・コーディネート、マネジメント人材を追記してはどうか。 ・ボランティアは、他部署との連携や集約など、仕組みづくり、プラットフォームのコーディネートが大切。

3. スポーツに親しめる環境づくりと地域の交流促進及び地域の活性化<活動の場をつくる>

委員名	主な内容
福西委員	<ul style="list-style-type: none"> ・県内イベントなど、全般的に集約して、情報発信していくことが重要。 ・施設のデジタル化、wifi環境も必要。イベント・大会運営の人材不足などの課題解決につながるかもしれない。 ・「デジタル化」を強調して記載してほしい。
松永委員	・縦横(他部署、他県等)が持つ情報(exボランティア)をどう集約するかも課題。デジタル化は重要。
並河委員	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士や教諭などが、条例を共有し、幼児期からのスポーツの重要性を理解することで、幼児期からのスポーツの底上げができる。 ・地域人材のマッチングが大事。

●今後の目標について

委員名	主な内容
松下委員	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIの設定が必要。具体的な数値目標を設定すべき。 ・目標設定にあたっては、行動のデータ分析が必要。